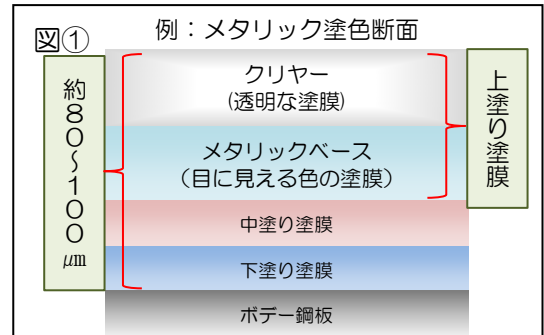


塗膜の傷と磨き作業

自動車ボデーの塗膜は、数種類の塗料の塗り重ねで構成されています。

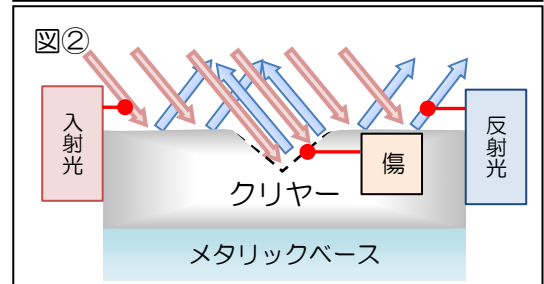
図①に示すメタリック塗色では、塗膜全体の厚みは80~100 μm 、最上層のクリアーは40 μm 程度です。

(メーカーや車種により異なります)



ボデーの塗膜に傷が付いた場合、クリアーまでの浅い傷でも光が当たると目立ちます。

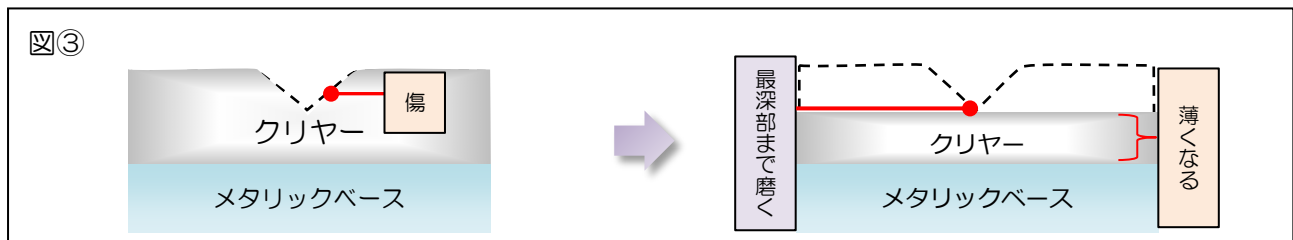
図②の様に、傷の部分は光の反射角が急激に変わるためです。



クリアーまでの傷であれば、磨き作業で消すことができます。

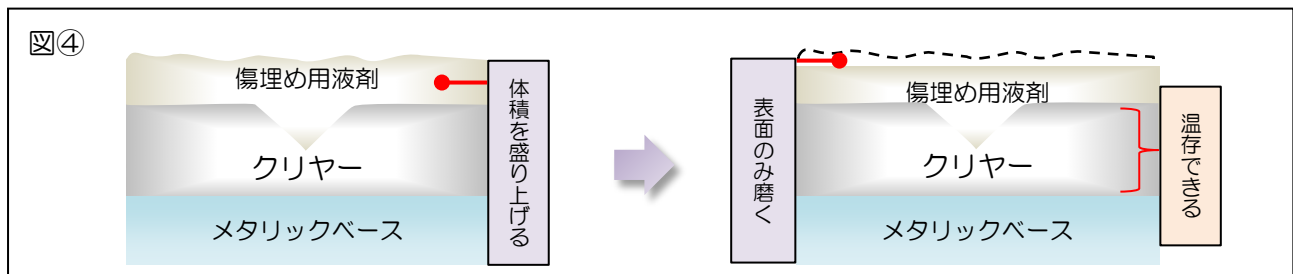
(クリアーより下層の塗膜まで付いた深い傷は消せません)

図③の様に、傷の最深部まで磨くことで傷はなくなります。クリアーは薄くなってしまいます。また、傷が深い場合は磨き過ぎで下層の塗膜まで露出させてしまうリスクもあります。



図④の様に、速乾性の傷埋め用液剤を先に塗布し、体積を盛り上げてから表面を磨く施工方法があります。クリアーを温存でき下層の塗膜を露出させるリスクも少なくなります。

傷には透明度の高い液剤が埋まっているため、見た目はほとんどわかりません。



EV等は軽量化のためにクリアーがもともと薄いという話を耳にします。こうなると磨き作業はベテランでもリスクを伴うので、今後は、図④の様な施工方法がスタンダードになって行くかもしれません。傷埋め用の液剤は各種ありそうなので、今後は品質や作業性等を検証して行きたいと思います。

以上